

Okubo, M., Ishikawa, K., & Kobayashi, A. (2013).
No trust on the left side: Hemifacial asymmetries for
trustworthiness and emotional expressions.
Brain and Cognition, **82**, 181-186.

大久保 街亜

この論文は、昨年、日本基礎心理学会第31回大会で発表された研究成果に基づき執筆されたものである。出版に当たっては、新たな分析を加えるなど、内容としても方法論としても、学会発表を行った当時よりも洗練されたものとなった。

この論文は、我々の研究室で取り組んでいる、顔を刺激とした信頼感の認知に関する一連の研究の一つである。信頼感の認知について、特に、筆者が長年取り組んできた左右差の観点から検討を行った。着想は、Okubo et al. (2012) で報告された現象から得た。Okubo et al. (2012) は、(1) 裏切り者検知には感情表出者の怒り感情が関わること、(2) 感情表出者が笑顔を浮かべると、裏切り者検知が阻害されることを示した。本研究では、この笑顔による裏切り者検知の阻害に関わるメカニズムを、表情表出の左右差とその原因である大脳左右半球の機能差の観点から検討した。学会報告対象となった実験では、実験刺激として使用した表情モデルを、金銭的な報酬が伴う信頼ゲームの裏切り回数により、裏切り者と協調者に分類した。そして、モデルの顔の左側とその鏡映像で構成された左-左顔と、顔の右側とその鏡映像で構成された右-右顔を参加者に呈示した。左-左顔と右-右顔には怒り、中性、笑いの3つの表情条件があった。実験の結果、笑顔条件で、裏切り者の左-左顔は右-右顔より信頼できると判断された。協調者にはこのような左右差はなかった。この結果は、裏切り者が、右半球によって司られる感情情報を効率的に利用し、右半球がコントロールする顔左側の表情を強く使い、裏切り者検知を巧みに阻害することを示唆するものである。

引用文献

Okubo, M., Kobayashi, A., & Ishikawa, K. (2012). A fake smile thwarts cheater detection. *Journal of Nonverbal Behavior*, **36**(3), 217-225.